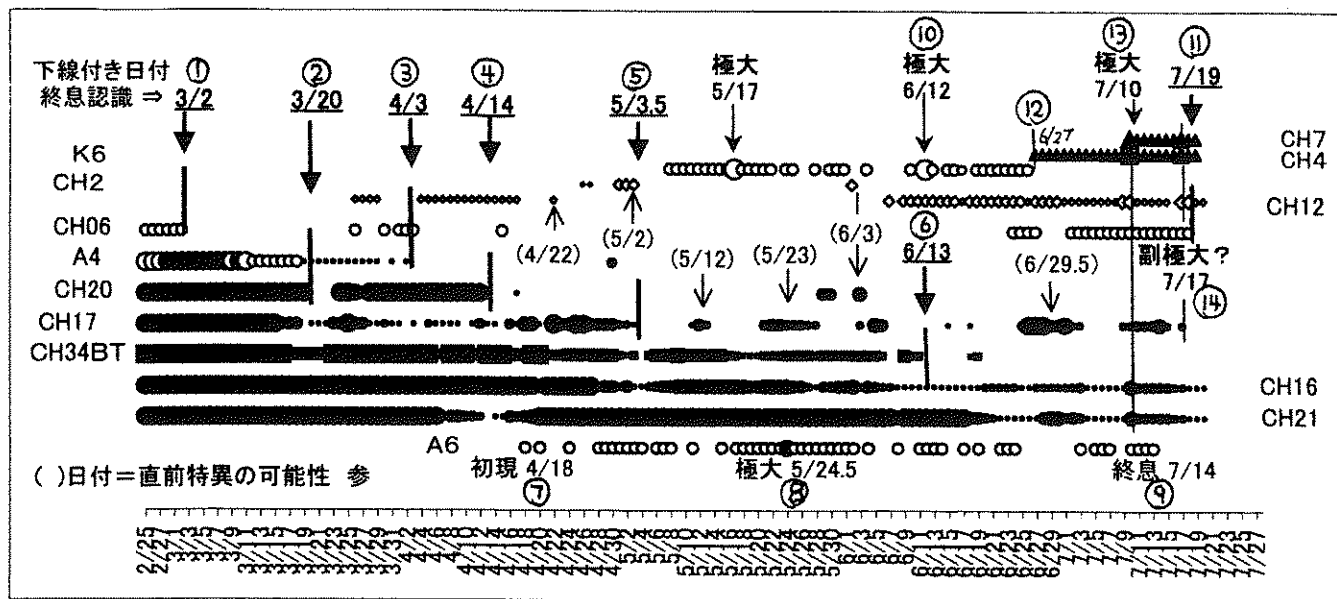


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995



極大	前兆終息	$T_{map}:T_{pp}=3.9:1$	推定発生日
2013.12/13	①2015.3/02	→	2015.8/02±
2014.02/27	②2015.3/20	→	2015.7/31±
2014.04/24	③2015.4/03	→	2015.7/30±
2014.06/07	④2015.4/14	→	2015.7/30±
2014.08/18	⑤2015.5/3.5	→	2015.7/31±
2015.01/22	⑥2015.6/13	→	2015.8/01±

初現	極大	$T_{fap}:T_{map}=20:13$	推定発生日	
⑦2015.04/18	⑧2015.5/24.5	→	2015.7/31±	
⑫2015.06/27	⑬2015.7/10	→	2015.8/03±	
主極大		副極大	$T_{map}:T_{ps}=3:1$	推定発生日
⑬2015/07/10		⑭2015.7/17	→	2015/7/31±
極大	前兆終息	$T_{map}:T_{pp}=3.9:1$	推定発生日	
⑧2015.05/24.5	⑨2015.7/14	→	2015.7/31±	
⑩2015.06/12	⑪2015.7/19	→	2015.7/31±	

※枠内前兆時間変化経験則関係の各番号①～⑭は、上図の前兆変化各日付の番号①～⑭に対応。

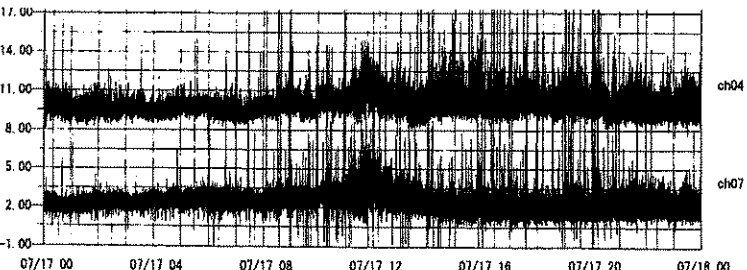
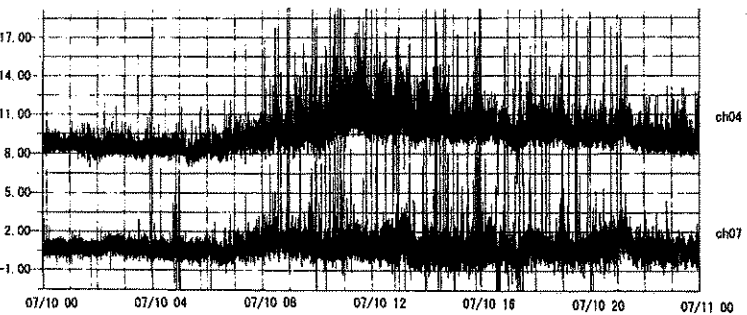
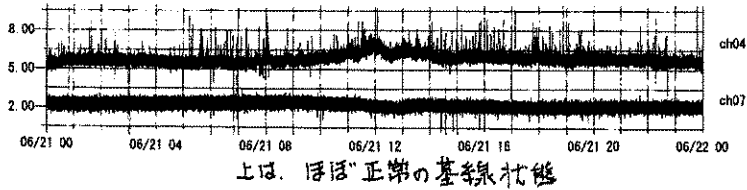
No.1778 別形態中規模前兆次々出現

2008年07月より満7年と云う観測歴上最長に継続する前兆群=No.1778 (地殻大型地震の可能性推定前兆群)の現況報告です。

2008年07月より7ステージの変化をして参りました当該前兆群ですが、No.2443前兆をはじめ、A)本年04月18日初現で05月24.5日極大認識、07月14日終息認識の秋田観測点A6 BF前兆を主とした前兆、B)本年05月17日と06月12日に極大が見える高知観測点K6-BFを主とする前兆等が出現致しました。これらは、No.1778長期前兆の別形態前兆と認識しています。大型規模で前兆期間が長い場合には、前兆終盤に新たな前兆群が出現し、解析すると、同じ推定領域を示し、同じ発生推定時期を示すと云う、フラクタル的な中規模前兆が出現する過去例が観測されています。

現在までで最後に出現した前兆は、右波形のとおり、八ヶ岳のCH04とCH07に同期出現している直接波近似変動です。変動形態はスボラティックEの際の直接波変動に近い形態ですが、スボラティックEでは無いことは確認(本年はこの8年間の中ではスボラティックEは顕著です)済。

～続報No.091へ続く～



原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

～続報No.090からの続き～

CH4・CH7 設定周波数と影響局

この様な直接波近似変動例は、M7±以上規模の地震の前兆として観測例はあります。新潟中越地震、岩手・宮城内陸地震等では、震央に近い放送局電波が直接波の様に観測されたケースがあります。

CH4, CH7 の設定周波数と影響局は右枠内のとおりです。現在の推定領域としては近畿圏の可能性が考えやすい状況ですが、右表から共通局として、京都局3kw 放送局の可能性が示唆されます。但し、京都局3kw が影響局となるCH15には、変動が観測されておりません。

89.3 宮古100w 玖珠100w	89.2 西脇100w 新居浜100w
89.4 室蘭250w 京都 3kw	89.3 宮古100w 玖珠100w
89.5 延岡100w	89.4 室蘭250w 京都 3kw
CH4(89.6MHz) ー設定周波数ー	CH7(89.5MHz) ー設定周波数ー
89.7 能代100w	89.6
89.8	89.7 能代100w
89.9 輪島100w 新居浜100w	89.8

CH4・7直接波近似変動関連以外は前兆終息認識
7/31±2発生の場合でも7/27±迄継続の可能性

このCH4, CH7 の直接波近似変動は、7/10が大きく極大認識されます。継続していた特異状態のレベルが極めて小さく減少していたCH16, CH21, CH17, CH12 が、この7/10から急激に前兆レベルが上昇しました。このことから、前述の特異状態は、このCH4, CH7 の直接波近似変動に関連して出現している可能性が示唆されます。

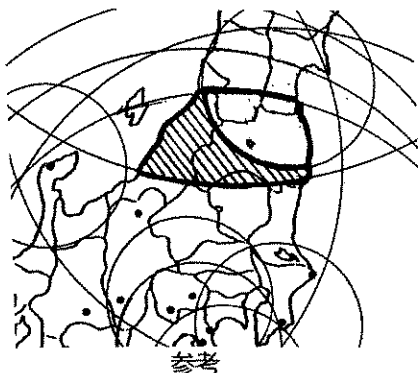
現在までの前兆変化を前頁の様に時間変化経験則に合わせて見ますと、全て07月31日±2 時期を示します。変化認識がこじつけで、計算された時期が同じ時期であることが偶然と云うのには少々考えにくい状況です。

過去例で、前兆期間が長い大型規模地震の前兆終盤段階で、今回の様な直接波近似変動が観測されたことはなく、現在の認識＝最終段階が正しい場合は、初めての観測例と言えます。

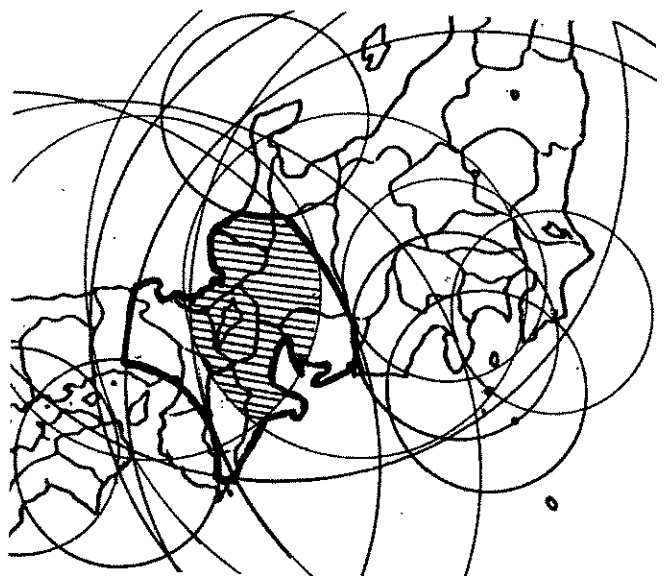
長期に渡り継続してきた前兆も、以前から継続している前兆は、CH16, CH21 のみで、これも先に記したとおり、CH4, CH7 の直接波近似変動に関連して出現している可能性が示唆されます。

7/10に変動が大きく極大に見えますが、7/17にも変動が大きく(7/16~7/18)、副極大の様にも見えます。但し、CH4, CH7 の前頁掲載の変動波形は、通常の地震前兆 (BF, PBF, BT, 特異) には見えません。しかし、7/10主極大、7/17副極大の様に出現し、主極大より副極大が緩やかな場合は、主極大～発生=Tmap、主極大～副極大間=Tps としたとき、Tmap:Tps=3:1 経験則が使用できる様な前兆出現形態です。この場合は7/31±が示唆されることとなります。

FAX, E-mail で日々配信しています「実験観測情報」では既に報告済ですが、2008年の岩手宮城内陸地震の際も発生前日まで2つの前兆が消えませんでした。現在のCH4, CH7 も7/10極大で7/31-8/1±が仮に地震発生の場合でも、7/27±迄、前兆が継続する可能性が計算できます。他に7/31-8/1±発生を否定する根拠前兆がありませんので、現在の推定に変更はありません。現在の推定時期を否定する根拠変動が観測された場合は続報致します。また 8/4段階で発生無く、前兆継続の場合も続報します。



B : 影響局誤認の場合の可能性が考えられる推定域



A : 可能性が考えやすい推定領域図 太線内=大枠推定域 斜線域=参考推定領域

- ◆推定領域：右図Aの太線領域内の可能性
斜線域=参考推定領域
影響局誤認の場合は上B図領域の可能性有
- ◆推定規模：M7.8±0.5 (M7.5～M7.9の可能性有)
- ◆推定時期：7月31日or 8月1日の可能性
(最大誤差=7月30日～8月3日内の可能性)
- ◇推定地震種=震源深さ30km以下の浅い日本列島地殻地震
- ◇推定発生時刻=午前9時±2 又は 午後6時±2

※7月末、前兆終息確認をしていると、更新に間に合わない可能性があります。ご了承下さい。8月3日迄に地震発生無く、前兆が継続出現していた場合には、再検討したのち続報で報告予定です。